

設置計画の概要

事項	記 入 欄										
設置手続きの種類	事前伺い										
計画の区分	研究科の専攻の設置										
フリガナ者	コリアツダイカクホウシン ヨコハマコリアツダイカク 国立大学法人 横浜国立大学										
フリガナ者	ヨコハマコリアツダイカク 横浜国立大学(Yokohama National University)										
新設学部等に おいて 養成する 人材の 像	<p>①・得意分野を持った個性豊かな教員の養成 画一的な教員像を求めるのではなく、それぞれの専攻分野における確かな学識と探求心を基盤とする ・問題解決能力と臨牀的実践力を備え、広い視野と柔軟な発想を持った教員や教育関係者の養成 実践力:学校現場からさらに地域社会へと広がるフィールドを対象 柔軟かつ確乎とした対応と問題解決が可能な能力 ・教科専門能力:学部で修得した基礎的専門能力をもとに、さらに高度な専門性へ実践へと反映させてゆく、創造性・応用性を備えた能力の養成 ・「スクールリーダー」に限らず、その下において活躍する「ミドルリーダー」「チームリーダー」の養成</p> <p>②大学教員と附属・地域学校教諭との協力により、教育科学、教科教育学、教科内容学を連携させ実践的な教育研究を行う</p> <p>③小学校・中学校・高等学校教員、臨床心理士、スクールカウンセラー、博士課程進学</p>										
既設学部等に おいて 養成する 人材の 像	<p>①高度化し先進化する教科教育の分野を深く学び、十分な理解知識に基づいて教育現場で活躍できるとともに、教育理論の原則的追究のみならず、「いじめ・不登校」「校内暴力」「学級崩壊」などの深刻で多様な教育上の諸課題に的確に対応できる臨牀的・実践的な知識と能力を兼ね備えた教員の養成</p> <p>②最先端の学問の追求とその教育法に関する最新専門的教育研究を行い、様々な教育学の理論的な教育研究を行うとともに、今日の多様な教育の諸問題の原因の究明と解決への方策に関する教育研究を行う</p> <p>③小学校・中学校・高等学校教員、臨床心理士、スクールカウンセラー、博士課程進学、官公庁、教育関係企業等</p>										
新設学部等に おいて 取得可能な 資格	<p>【教育実践専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)、高等学校教諭専修免許状(国語、書道、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工業、家庭、英語)、養護教諭専修免許状</p>										
既設学部等に おいて 取得可能な 資格	<p>【学校教育臨床専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)、高等学校教諭専修免許状(国語、書道、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工業、家庭、英語)、養護教諭専修免許状</p> <p>【学校教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)高等学校教諭専修免許状(国語、書道、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工業、家庭、英語)</p> <p>【特別支援教育専攻】特別支援学校教諭専修免許状</p> <p>【言語文化系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(国語、英語)、高等学校教諭専修免許状(国語、書道、英語)</p> <p>【社会系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(社会)、高等学校教諭専修免許状(地理歴史、公民)</p> <p>【自然系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(理科、数学)、高等学校教諭専修免許状(理科、数学)</p> <p>【生活システム系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(技術、家庭)、高等学校教諭専修免許状(工業、家庭)</p> <p>【健康・スポーツ系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(保健体育)、高等学校教諭専修免許状(保健体育)</p> <p>【芸術系教育専攻】小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(音楽、美術)、高等学校教諭専修免許状(音楽、美術、工業)</p>										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
	学位又は 称号					学位又は 学科の分野	異動元		助教 以上	うち 教授	
	教育学研究科		100	-	200	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成23年 4月	学校教育臨床専攻	8	5
	教育実践専攻	2							学校教育専攻	9	5
									特別支援教育専攻	7	6
									言語文化系教育専攻	15	11
									社会系教育専攻	12	7
									自然系教育専攻	13	7
									生活システム系教育専攻	12	7
									健康・スポーツ系教育専攻	9	7
									芸術系教育専攻	14	6
									新規採用	9	6
									計	108	61
既設学部等の概要(現在の状況)	既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
	学位又は 称号					学位又は 学科の分野	異動先		助教 以上	うち 教授	
	教育学研究科		9	-	18	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成12年 4月	教育実践専攻	8	5
	学校教育臨床専攻(廃止)	2							計	8	5
	学校教育専攻(廃止)	2	16	-	32	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	昭和54年 4月	教育実践専攻	9	5
	特別支援教育専攻(廃止)	2	8	-	16	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	昭和55年 4月	退職	1	1
	言語文化系教育専攻(廃止)	2	20	-	40	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成13年 4月	計	10	6
	社会系教育専攻(廃止)	2	15	-	30	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	昭和55年 4月	教育実践専攻	7	6
	自然系教育専攻(廃止)	2	25	-	50	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成13年 4月	計	7	6
	生活システム系教育専攻(廃止)	2	14	-	28	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成13年 4月	教育実践専攻	12	7
	健康・スポーツ系教育専攻(廃止)	2	8	-	16	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成13年 4月	都市イノベーション学府	8	3
	芸術系教育専攻(廃止)	2	15	-	30	修士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成13年 4月	退職	1	1
									計	21	11
									教育実践専攻	13	7
									環境情報学府	2	2
									退職	3	3
									計	18	12
									教育実践専攻	12	7
									退職	1	1
									計	13	8
									教育実践専攻	9	7
									退職	1	1
									計	10	8
									教育実践専攻	14	6
									都市イノベーション学府	4	1
									計	18	7

【備考欄】

(改組前) 9専攻		入学定員
学校教育臨床専攻		9
学校教育専攻		16
特別支援教育専攻		8
言語文化系教育専攻		20
社会系教育専攻		15
自然系教育専攻		25
生活システム系専攻		14
健康・スポーツ系教育専攻		8
芸術系教育専攻		15
計		130



(改組後) 1専攻		入学定員
教育実践専攻		100
合計		100

教育課程等の概要 (事前伺い)

(教育学研究科教育実践専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 コース	教育デザイン	1通	4				○		61	41	6			※実験
	小計(1科目)		4	0	0		—		61	41	6			—
教育 インター コース	教育インターン	1前後・2前後	2				○		50	37	2			※実験
	小計(1科目)		2	0	0		—		50	37	2			—
連修 科目 目録	課題研究	2通	4				○		50	37	2			
	小計(1科目)		4	0	0		—		50	37	2			—
専 門 科 目 教育 デザイン コース 教育 科学 科目 群	(選択科目)													
	教育哲学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	教育哲学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	教育人間学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	教育人間学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	教育社会学講義Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	教育社会学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	教育社会学演習Ⅰ	1・2後		2			○			1				
	教育社会学演習Ⅱ	1・2後		2			○			1				
	教育史講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	教育史講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	教師教育論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	教師教育論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	教育行財政学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	教育行財政学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	教育政策論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	教育政策論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	教育問題論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	教育問題論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	教育問題論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	教育問題論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	生涯教育学講義Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	生涯教育学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	多文化教育論演習Ⅰ	1・2後		2			○			1				
	多文化教育論演習Ⅱ	1・2後		2			○			1				
	カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	認知発達心理学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	認知発達心理学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	認知発達心理学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	認知発達心理学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	学習心理学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	学習心理学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
学習心理学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
学習心理学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
教育臨床学講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
教育臨床学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
教育臨床学演習Ⅰ	1・2後		2			○			1					
教育臨床学演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
教育実践学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
教育実践学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
教育実践学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
教育実践学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
授業デザイン論講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
授業デザイン論講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
授業デザイン演習Ⅰ	1・2後		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育科学科目群	授業デザイン演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	臨床生徒指導論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	臨床生徒指導論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	臨床生徒指導論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	臨床生徒指導論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	情報教育論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	情報教育論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	情報教育論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	情報教育論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	小計(54科目)	—	0	108	0	—	—	—	13	7	0	0	0	—	
教育デザインコース 教育開発科目群	国語教授法講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	国語教授法講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	国語教授法演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	国語教授法演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	国語カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	国語カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	国語カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	国語カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	書写書道講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	書写書道講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	書写書道演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	書写書道演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	第二言語習得論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	第二言語習得論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	第二言語習得論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	第二言語習得論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	英語教育学講義AⅠ	1・2前		2		○			1						
	英語教育学講義AⅡ	1・2前		2		○			1						
	英語教育学講義BⅠ	1・2前		2		○			1						
	英語教育学講義BⅡ	1・2前		2		○			1						
	英語教育学演習AⅠ	1・2後		2			○		1						
	英語教育学演習AⅡ	1・2後		2			○		1						
	英語教育学演習BⅠ	1・2後		2			○		1						
	英語教育学演習BⅡ	1・2後		2			○		1						
	社会科・地理歴史科教授法講義	1・2前		2		○			1						
	社会科・公民科教授法講義	1・2前		2		○			1						
	社会科・地理歴史科教授法演習	1・2後		2			○		1						
	社会科・公民科教授法演習	1・2後		2			○		1						
	社会科・地理歴史科カリキュラム論講義	1・2前		2		○			1						
	社会科・公民科カリキュラム論講義	1・2前		2		○			1						
	社会科・地理歴史科カリキュラム論演習	1・2後		2			○		1						
	社会科・公民科カリキュラム論演習	1・2後		2			○		1						
	理科教授法講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	理科教授法講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	理科教授法演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	理科教授法演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	理科カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	理科カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	理科カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	理科カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	算数・数学科教授法講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	算数・数学科教授法講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
算数・数学科教授法演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
算数・数学科教授法演習Ⅱ	1・2後		2			○		1							
算数・数学カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1							
算数・数学カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1							
算数・数学カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
算数・数学カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1							
算数・数学教育研究方法論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1							
算数・数学教育研究方法論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1							
算数・数学教育研究方法論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
算数・数学教育研究方法論演習Ⅱ	1・2後		2			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	教育開発科目群	技術科教授法講義		2		○			1						
		技術科教授法演習Ⅰ	1・2後	2			○		1						
		技術科教授法演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
		技術科カリキュラム論講義	1・2前	2			○				1				
		技術科カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後	2				○			1				
		技術科カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後	2					○		1				
		家庭科教授法講義Ⅰ	1・2前	2			○			1					
		家庭科教授法講義Ⅱ	1・2前	2			○			1					
		家庭科教授法演習Ⅰ	1・2後	2				○		1					
		家庭科教授法演習Ⅱ	1・2後	2					○	1					
		家庭科カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前	2			○			3	2				
		家庭科カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前	2			○			3	2				
		家庭科カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後	2				○		3	1	1			
		家庭科カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後	2					○	3	1	1			
		保健体育科教育学講義AⅠ	1・2前	2			○			7	3				
		保健体育科教育学講義AⅡ	1・2前	2			○			7	3				
		保健体育科教育学演習AⅠ	1・2後	2				○		7	3				
		保健体育科教育学演習AⅡ	1・2後	2					○	7	3				
		保健体育科教育学講義BⅠ	1・2前	2			○			7	3				
		保健体育科教育学講義BⅡ	1・2前	2			○			7	3				
		保健体育科教育学演習BⅠ	1・2後	2				○		7	3				
		保健体育科教育学演習BⅡ	1・2後	2					○	7	3				
		音楽教授法講義Ⅰ	1・2前	2			○			1					
		音楽教授法講義Ⅱ	1・2前	2			○			1					
		音楽教授法演習Ⅰ	1・2後	2				○			1				
		音楽教授法演習Ⅱ	1・2後	2					○		1				
		音楽カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前	2			○			1					
		音楽カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前	2			○			1					
		音楽カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後	2				○			1				
		音楽カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後	2					○		1				
	美術教授法講義Ⅰ	1・2前	2			○			1						
	美術教授法講義Ⅱ	1・2前	2			○			1						
	美術教授法演習Ⅰ	1・2後	2				○		1						
	美術教授法演習Ⅱ	1・2後	2					○	1						
	美術カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前	2			○			1						
	美術カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前	2			○			1						
	美術カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後	2				○		1						
	美術カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後	2					○	1						
	生活科・総合学習学演習Ⅰ	1・2後	2				○		1						
	生活科・総合学習学演習Ⅱ	1・2後	2					○	1						
	小計(92科目)		—	0	184	0		—	32	18	1	0	0	—	
	教科内容科目群	中国古典文学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
		中国古典文学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
		中国古典文学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
		中国古典文学演習Ⅱ	1・2後		2				○	1					
日本古典文学講義Ⅰ		1・2前		2		○			1						
日本古典文学講義Ⅱ		1・2前		2		○			1						
日本古典文学演習Ⅰ		1・2後		2			○		1						
日本古典文学演習Ⅱ		1・2後		2				○	1						
日本近代文学講義Ⅰ		1・2前		2		○			1						
日本近代文学講義Ⅱ		1・2前		2		○			1						
日本近代文学演習Ⅰ		1・2後		2			○		1						
日本近代文学演習Ⅱ		1・2後		2				○	1						
日本語史講義Ⅰ		1・2前		2		○				1					
日本語史講義Ⅱ		1・2前		2		○				1					
日本語史演習Ⅰ		1・2後		2			○			1					
日本語史演習Ⅱ		1・2後		2				○		1					
英語学講義Ⅰ		1・2前		2		○			1						
英語学講義Ⅱ		1・2前		2		○			1						
英語学演習Ⅰ		1・2後		2			○		1						
英語学演習Ⅱ		1・2後		2				○	1						
英米文学講義AⅠ	1・2前		2		○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	教育デザインコース 教科内容科目群	英米文学講義AⅡ		2		○			1							
		英米文学講義BⅠ		2		○										
		英米文学講義BⅡ		2		○					1					
		英米文学演習AⅠ		2			○		1							
		英米文学演習AⅡ		2			○		1							
		英米文学演習BⅠ		2			○					1				
		英米文学演習BⅡ		2			○					1				
		英米文化講義AⅠ		2			○			1						
		英米文化講義AⅡ		2			○			1						
		英米文化講義BⅠ		2			○				1					
		英米文化講義BⅡ		2			○				1					
		英米文化演習AⅠ		2				○		1						
		英米文化演習AⅡ		2				○		1						
		英米文化演習BⅠ		2				○			1					
		英米文化演習BⅡ		2				○			1					
		比較言語学講義Ⅰ		2			○			1						
		比較言語学講義Ⅱ		2			○			1						
		比較言語学演習Ⅰ		2				○			1					
		比較言語学演習Ⅱ		2				○			1					
		日本語学講義Ⅰ		2			○			1						
		日本語学講義Ⅱ		2			○			1						
		日本語学演習Ⅰ		2				○		1						
		日本語学演習Ⅱ		2				○		1						
		日本語教育総合演習Ⅰ		2				○		1						
		日本語教育総合演習Ⅱ		2				○		1						
		日本語教育学講義Ⅰ		2			○				1					
		日本語教育学講義Ⅱ		2			○				1					
		日本語教育学演習Ⅰ		2				○			1					
		日本語教育学演習Ⅱ		2				○			1					
		日本語教育方法論総合演習Ⅰ		2				○			1					
		日本語教育方法論総合演習Ⅱ		2				○			1					
		小計(52科目)		—	0	104	0	—	—	11	5	1	0	0	—	
		専門科目	教科内容科目群	自然地理学講義Ⅰ		2		○				1				
				自然地理学講義Ⅱ		2		○				1				
				自然地理学演習Ⅰ		2			○			1				
				自然地理学演習Ⅱ		2			○			1				
				人文地理学講義Ⅰ		2			○			1				
				人文地理学講義Ⅱ		2			○			1				
				人文地理学演習Ⅰ		2				○		1				
				人文地理学演習Ⅱ		2				○		1				
				地理学野外実習Ⅰ		2					○	1				
				地理学野外実習Ⅱ		2					○	1				
				歴史学講義A(日本前近代史)Ⅰ		2			○			1				
				歴史学講義A(日本前近代史)Ⅱ		2			○			1				
				歴史学演習A(日本前近代史)Ⅰ		2				○		1				
				歴史学演習A(日本前近代史)Ⅱ		2				○		1				
				歴史学講義B(日本近現代史)Ⅰ		2			○			1				
				歴史学講義B(日本近現代史)Ⅱ		2			○			1				
				歴史学演習B(日本近現代史)Ⅰ		2				○		1				
				歴史学演習B(日本近現代史)Ⅱ		2				○		1				
				歴史学講義C(外国史)Ⅰ		2			○				1			
				歴史学講義C(外国史)Ⅱ		2			○				1			
歴史学演習C(外国史)Ⅰ				2				○			1					
歴史学演習C(外国史)Ⅱ				2				○			1					
歴史学講義D(歴史認識論)Ⅰ				2			○			1						
歴史学講義D(歴史認識論)Ⅱ				2			○			1						
歴史学演習D(歴史認識論)Ⅰ				2				○			1					
歴史学演習D(歴史認識論)Ⅱ				2				○			1					
倫理学講義Ⅰ				2			○				1					
倫理学講義Ⅱ				2			○				1					
倫理学演習Ⅰ				2				○			1					
倫理学演習Ⅱ				2				○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	教育デザインコース 教科内容科目群	社会思想論講義Ⅰ		2		○			1						
		社会思想論講義Ⅱ		2		○			1						
		社会思想論演習Ⅰ		2			○		1						
		社会思想論演習Ⅱ		2			○		1						
		現代憲法論講義		2		○			1						
		現代憲法論演習		2			○		1						
		現代人権論講義		2		○			1						
		現代人権論演習		2			○		1						
		経済学講義Ⅰ		2		○				1					
		経済学講義Ⅱ		2		○				1					
		経済学演習Ⅰ		2			○				1				
		経済学演習Ⅱ		2			○				1				
		小計(42科目)		—	0	84	0	—	—	6	6	0	0	0	—
		物性物理学講義		2		○					1				
		物性物理学演習		2			○				1				
		現代物理学講義		2		○				1					
		現代物理学演習		2			○			1					
		無機化学講義		2		○					1				
		無機化学演習		2			○				1				
		有機化学講義		2		○					1				
		有機化学演習		2			○				1				
		動物学講義		2		○				1					
		動物学演習		2			○			1					
		植物学講義		2		○					1				
		植物学演習		2			○				1				
		地質学講義		2		○					1				
		地質学演習		2			○				1				
		気象学講義		2		○					1				
		気象学演習		2			○				1				
		自然史科学講義		2		○					1				
		自然史科学演習		2			○				1				
		代数学講義		2		○				1					
		代数学演習		2			○			1					
		幾何学講義		2		○					1				
		幾何学演習		2			○				1				
		解析学講義		2		○					1				
		解析学演習		2			○				1				
		応用数学講義		2		○				1					
		応用数学演習		2			○			1					
		情報科学講義		2		○						1			
		情報科学演習		2			○					1			
		小計(28科目)		—	0	56	0	—	—	4	9	1	0	0	—
木材加工学講義		2		○					1						
木材加工学演習		2			○				1						
金属加工学講義		2		○				1							
金属加工学演習		2			○			1							
情報計測学講義		2		○				1							
情報計測学演習		2			○			1							
家族関係学講義		2		○					1						
家族関係学演習		2			○				1						
生活経営学講義		2		○				1							
生活経営学演習		2			○			1							
被服学講義		2		○					1						
被服学演習		2			○				1						
食物学講義		2		○				1							
食物学演習		2			○			1							
食教育論講義		2		○				1							
食教育論演習		2			○			1							
住居学講義		2		○						1					
住居学演習		2			○					1					
児童学講義		2		○					1						
児童学演習		2			○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 教育デザインコース 教科内容科目群	生活経済環境論講義	1・2前		2		○			1						
	生活経済環境論演習	1・2後		2			○		1						
	小計(22科目)	—	0	44	0	—	—	—	7	4	1	0	0	—	
	保健体育内容学講義A(舞踊学)I	1・2前		2		○			1						
	保健体育内容学講義A(舞踊学)II	1・2前		2		○			1						
	保健体育内容学演習A(舞踊学)I	1・2後		2			○		1						
	保健体育内容学演習A(舞踊学)II	1・2後		2			○		1						
	保健体育内容学講義B(武道学)I	1・2前		2		○			1						
	保健体育内容学講義B(武道学)II	1・2前		2		○			1						
	保健体育内容学演習B(武道学)I	1・2後		2			○		1						
	保健体育内容学演習B(武道学)II	1・2後		2			○		1						
	体育心理学講義I	1・2前		2		○				1					
	体育心理学講義II	1・2前		2		○				1					
	体育心理学演習I	1・2後		2			○			1					
	体育心理学演習II	1・2後		2			○			1					
	体育社会学講義I	1・2前		2		○			1						
	体育社会学講義II	1・2前		2		○			1						
	体育社会学演習I	1・2後		2			○		1						
	体育社会学演習II	1・2後		2			○		1						
	運動学講義A(体力科学)I	1・2前		2		○			1						
	運動学講義A(体力科学)II	1・2前		2		○			1						
	運動学演習A(体力科学)I	1・2後		2			○		1						
	運動学演習A(体力科学)II	1・2後		2			○		1						
	運動学講義B(コーチング学)I	1・2前		2		○				1					
	運動学講義B(コーチング学)II	1・2前		2		○				1					
	運動学演習B(コーチング学)I	1・2後		2			○			1					
	運動学演習B(コーチング学)II	1・2後		2			○			1					
	運動学講義C(バイオメカニクス)I	1・2前		2		○			1						
	運動学講義C(バイオメカニクス)II	1・2前		2		○			1						
	運動学演習C(バイオメカニクス)I	1・2後		2			○		1						
	運動学演習C(バイオメカニクス)II	1・2後		2			○		1						
	運動生理学講義I	1・2前		2		○			1						
	運動生理学講義II	1・2前		2		○			1						
	運動生理学演習I	1・2後		2			○		1						
	運動生理学演習II	1・2後		2			○		1						
	身体適応学講義I	1・2前		2		○			1						
	身体適応学講義II	1・2前		2		○			1						
	身体適応学演習I	1・2後		2			○		1						
	身体適応学演習II	1・2後		2			○		1						
	学校保健学講義I	1・2前		2		○				1					
	学校保健学講義II	1・2前		2		○				1					
	学校保健学演習I	1・2後		2			○			1					
	学校保健学演習II	1・2後		2			○			1					
	小計(40科目)	—			80	0	—	—	—	7	3	0	0	0	—
声楽実践論講義I	1・2前		2		○				1						
声楽実践論講義II	1・2前		2		○				1						
声楽実践論演習I	1・2後		2			○			1						
声楽実践論演習II	1・2後		2			○			1						
器楽(ピアノ)実践論講義I	1・2前		2		○			1							
器楽(ピアノ)実践論講義II	1・2前		2		○			1							
器楽(ピアノ)実践論演習I	1・2後		2			○		1							
器楽(ピアノ)実践論演習II	1・2後		2			○		1							
作曲実践論講義I	1・2前		2		○				1						
作曲実践論講義II	1・2前		2		○				1						
作曲実践論演習I	1・2後		2			○			1						
作曲実践論演習II	1・2後		2			○			1						
音楽表現実践論講義I	1・2前		2		○					1					
音楽表現実践論講義II	1・2前		2		○					1					
音楽表現実践論演習I	1・2後		2			○				1					
音楽表現実践論演習II	1・2後		2			○				1					
絵画実践論講義I	1・2前		2		○				1						
絵画実践論講義II	1・2前		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教育デザインコース	教科内容科目群	絵画実践論演習Ⅰ	1・2後	2			○			1								
		絵画実践論演習Ⅱ	1・2後	2			○			1								
		彫刻実践論講義Ⅰ	1・2前	2			○			1								
		彫刻実践論講義Ⅱ	1・2前	2			○			1								
		彫刻実践論演習Ⅰ	1・2後	2				○		1								
		彫刻実践論演習Ⅱ	1・2後	2				○		1								
		デザイン実践論講義Ⅰ	1・2前	2				○			1							
		デザイン実践論講義Ⅱ	1・2前	2				○			1							
		デザイン実践論演習Ⅰ	1・2後	2					○		1							
		デザイン実践論演習Ⅱ	1・2後	2					○		1							
		美術表現実践論講義Ⅰ	1・2前	2				○			1							
		美術表現実践論講義Ⅱ	1・2前	2				○			1							
		美術表現実践論演習Ⅰ	1・2後	2					○		1							
		美術表現実践論演習Ⅱ	1・2後	2					○		1							
		工芸実践論講義Ⅰ	1・2前	2				○			1							
		工芸実践論講義Ⅱ	1・2前	2				○			1							
		工芸実践論演習Ⅰ	1・2後	2					○		1							
		工芸実践論演習Ⅱ	1・2後	2					○		1							
	小計（36科目）	—	0	72	0			—		6	7	1	0	0		—		
	専門科目	教育インターン科目	学校臨床実習（臨床心理専修必修）	1後・2前後	2				○		1						※実験	
			特別支援教育実地指導（特別支援教育専修）	1・2前・後	2					○		6	1				※実験	
			特別支援教育臨床実習（特別支援教育専修）	1・2前・後	2					○		6	1				※実験	
			障害児ケース支援研究（特別支援教育専修）	1・2前・後	2					○		6	1				※実験	
			小計（4科目）		8	0	0		—		7	1					—	
		連修科目	課題研究	2通	4				○		11	4					—	
		小計（1科目）		4	0	0		—		11	4						—	
		特別支援・臨床心理コース	特別支援教育専修	(特別支援に関する科目)														
				障害学講義Ⅰ	1・2前	2			○			1						
				障害学講義Ⅱ	1・2前	2			○			1						
	障害学演習Ⅰ			1・2後	2				○		1							
	障害学演習Ⅱ			1・2後	2				○		1							
	障害児精神病理学講義Ⅰ			1・2前	2			○			1							
	障害児精神病理学講義Ⅱ			1・2前	2			○			1							
	障害児精神病理学演習Ⅰ			1・2後	2				○		1							
	障害児精神病理学演習Ⅱ			1・2後	2				○		1							
	知的障害教育学講義Ⅰ			1・2前	2				○		1							
知的障害教育学講義Ⅱ	1・2前			2				○		1								
知的障害教育学演習Ⅰ	1・2後			2					○		1							
知的障害教育学演習Ⅱ	1・2後			2					○		1							
知的障害心理学講義Ⅰ	1・2前			2				○		1								
知的障害心理学講義Ⅱ	1・2前			2				○		1								
知的障害心理学演習Ⅰ	1・2後			2					○		1							
知的障害心理学演習Ⅱ	1・2後			2					○		1							
運動障害心理学講義Ⅰ	1・2前			2				○		1								
運動障害心理学講義Ⅱ	1・2前			2				○		1								
運動障害心理学演習Ⅰ	1・2後			2					○		1							
運動障害心理学演習Ⅱ	1・2後	2					○		1									
病弱教育学講義Ⅰ	1・2前	2				○			1									
病弱教育学講義Ⅱ	1・2前	2				○			1									
病弱教育学演習Ⅰ	1・2後	2					○		1									
病弱教育学演習Ⅱ	1・2後	2					○		1									
言語障害教育学講義Ⅰ	1・2前	2				○			1									
言語障害教育学講義Ⅱ	1・2前	2				○			1									
言語障害教育学演習Ⅰ	1・2後	2					○		1									
言語障害教育学演習Ⅱ	1・2後	2					○		1									
聴覚障害心理学講義Ⅰ	1・2前	2				○			1									

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別支援 専攻 臨床心理学 専攻	聴覚障害心理学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	聴覚障害心理学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	聴覚障害心理学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	小計(32科目)	—	0	64	0	—	—	—	6	1	0	0	0	—	—
	(臨床心理に関する科目)														
	臨床心理面接特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	臨床心理面接特論Ⅱ	1・2後		2		○				1					
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	心理療法特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	精神医学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	心身医学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	精神薬理学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	学校臨床心理学特論	1・2前・後		2		○				1					
	投影法特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	投影法特論Ⅱ	1・2後		2		○					1				兼1
	臨床心理関連行政論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	社会心理学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	人間関係特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	家族心理学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	犯罪心理学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	学習心理学特論	1・2前・後		2		○				1					
	認知心理学特論	1・2前・後		2		○				1					
	グループ・アプローチ特論	1・2前・後		2		○				1					
	発達心理学特論	1・2前・後		2		○				1					
	教育心理学特論	1・2前・後		2		○					1				兼1
	心理学研究法特論	1・2前・後		2		○				2					
	心理統計法特論	1・2前・後		2		○					1				
	臨床心理査定演習Ⅰ	1・2後		2				○			1				
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2前		2				○			1				
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1前		2					○	1	1				
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1後		2					○	1	1				
	臨床心理実習	2通		4					○	1		4			兼4
	小計(28科目)	—	0	58	0	—	—	—	—	5	3	15	0	0	兼15
合計(434科目)	—	22	854	0	—	—	—	—	61	41	21	0	0	兼15	
学位又は称号	修士(教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
設置の趣旨・必要性															
I 設置の趣旨・必要性															
<p>横浜国立大学大学院教育学研究科は、平成12年度に設置した独立専攻の学校教育臨床を含め平成13年度に組織変更を行い、9専攻を擁する研究科として再スタートした。その特色としては、教科の枠を越えた専攻構成と、現代的課題に対応した「総合学習的教育の分野」、昼間主・夜間主の区分による有職者への対応であった。これまで、教員としての高度な専門性と現代的課題に関する知識・認識を備えた有用な人材を初等・中等の学校現場、及び臨床心理や特別支援の現場に提供してきた。しかし、以下のような改善を要する課題を抱えている。</p> <p>1) 現教育学研究科は、教科の枠を越えた専攻構成をもち、教科教育学と教科内容学の協働を促すだけでなく、隣接教科の教科教育学、教科内容学の資源を活用している。しかし、教育科学、教科教育学、教科内容学の3者の連携に関して戦略的な対応が不十分であった。そのために、教科による教科のための研究という従来の性格を変えることなく、教育の場における教科そのものの基礎付けがなおざりにされる傾向があった。そのため、学校現場において教科を教えるための動機付け、動機付けに基づいた実践的な授業構築の点で不十分さが感じられるようになった。</p> <p>2) 「総合学習的教育の分野」は、異文化理解教育分野、共生教育分野など7分野を擁する意欲的な取り組みであったが、教員養成を担当する教員と非担当の教員が混在し、教員養成担当教員は教科教育学との密接な連関を有するものの、非担当教員は教科教育学との連携が不足するという問題が生じた。社会や文化を理解するための視野は拡大したものの、学校という限定された場から出発する「教師教育学」ないし「教員養成学」の視点が曖昧となったのである。</p> <p>3) 独立専攻を引き継いだ体制であったため学校教育臨床専攻において、学校教育臨床分野と臨床心理学コースが「臨床」という名前で並立することとなった。設立当時は「臨床」ないし「実践」の名前によって新規性が見られたが、臨床心理士養成に関しては専門化が進み、一方、「臨床」ないし「実践」の方向性を各専攻が強化するに従い、学校教育臨床分野を独立した分野とする意味が薄らいだ。一方、特別支援教育において知的障害、通級での教育など社会的変化に合わせ力動的な心理療法との関係を密接にする必要も生じた。</p> <p>4) 夜間主の学生については、夜間6、7限、土曜日、夏期集中などで授業を行っているが、固定した時間割と入学した夜間主学生の通学可能時間との調整が困難であって、昼間主・夜間主の募集単位の区分が夜間学生の履修の自由度を減じる結果になっている。</p> <p>上記の諸点の解決を行うために、教育科学、教科教育学、教科内容学の連携を深め、特別支援教育と臨床心理学においていっそうの専門化を図り、教育現場で求められている高度な能力を備えた実践的な人材を養成するために、「教員養成」「教師教育」を目的として教育学研究科の改組を行うこととした。</p>															

A) 教員養成に対する社会的要請及び改組の背景と必要性

教員養成系教育学研究科の最大の問題は、その目的が曖昧であったことにある。当初、研究系教育学部、文学部、理学部及びその大学院に出自をもつ教員を主たる成員として、教育学研究科は教育科学、教科内容学を中心に成立し、教科教育学ははまだ確立していなかった。教員養成系教育学研究科の設立によって、教育学部を母体とする教科教育学が徐々に整備されることになる。しかし、研究系教育学研究科の教育科学、文学研究科、理学研究科の教科内容学、教員養成系教育学研究科ないし教職経験者による教科教育学が、それぞれの出自に縛られたまま、並立してきたのが近年までの状況である。

学校教育は、社会、地域、家庭といった子どもを取り巻く環境と、学校という場における子どもに対する具体的な教育・指導を不可欠の要件とし、この条件の下で、人間と人間社会の再生産に寄与する。教員養成ないし教師教育は、そのための担い手を育成するものであるが、この人間と社会の再生産のために、さまざまな個別学問や現場経験を統合し実践的な新たな「学」を創出する必要がある。教科内容学は教科教育学と教育科学の視点で、教科教育学は教科内容学と教育科学の視点で、教育科学は教科内容学と教科教育学の視点で検証され、問い直されねばならない。

本教育学研究科は、実践的な「学」の観点から、教育実践1専攻とした。

「教育実践」という名称を用いた理由は、「教育インターン科目」など学校現場に深く関わる科目を必修としてカリキュラムに教育実践を取り入れたという点にとどまらない。以下で述べるように、理論的な科目が学校現場における教育インターン科目を通じて検証され、検証・更新された理論的な科目が教育インターン科目を検証・更新していくというように、相互的なフィードバックを行い続けることで新たな教育実践を生み出す、理論と実践の関係の「実践的な」改革を目指している。本教育学研究科は、学校現場との連携を深める仕組みのもと、こうした「実践性」が教員養成、教師教育の「学」の基盤であると位置づけ、「教育実践」専攻という名称を用いた。

実践は多くの意味で用いられる言葉であるが、学校現場における実践性として、まず、

- ① 子どもとのコミュニケーション能力、学級管理・運営能力といった人格・組織に関わる面
- ② 教科内容の教育法や教科内容の深い理解といった学力に関わる面

があげられる。本教育学研究科は、体系的な授業配置を欠き、修士論文中心主義的であった従来の修士課程のカリキュラムを改め、学生が自分自身の研究との関係で学校現場における実践性を獲得し教員としてのキャリア形成を達成するために、コア科目の「教育デザイン」と「教育インターン科目」を配置した。

本教育学研究科が目指す実践性のいま一つの目的は「学」そのものの実践性である。教育科学、教科教育学、教科内容学のいずれも、人間と社会の再生産及びその公教育における現実化、すなわち教育理念としての「生きる力」の共通の基盤の上に立って、生きた力動的な知として活性化されねばならない。本教育学研究科は、「教育デザインコース」において、教育科学、教科教育学、教科内容学のそれぞれの分野を4単位以上の必修選択とし、知の活性化を促すことにした。学生の科目履修方法は学生自身の研究目的に応じてコア科目の「教育デザイン」を通じて指導されることになる。

コア科目の「教育デザイン」、「教育インターン科目」、3分野にまたがる必修選択科目という新たな試みは、学生の研究報告や研究成果を通じて、22年度に設置される教育デザインセンターの研究デザイン部門において集約・検証され、コア科目担当教員や指導教員へとフィードバックされる。コア科目の「教育デザイン」、「教育インターン科目」、必修選択科目の内容や方法を検証し改善するものとして、教育デザインセンターの研究デザイン部門は教育学研究科と不可分の存在なのである。

B) 教育学研究科の構成（1専攻2コース）とコースごとの目的について

専門教科の学問的近接性による広域の9専攻構成であった従来の教育学研究科を、1専攻の「教育実践専攻」に改組する。従来からも教科教育と教科内容の関係は、東京学芸大学連合大学院の「広域科学としての教科教育」（教育科学・教科教育・教科内容）に参画していることもあって密接な関係をもっていたが、教科と教育科学の密接な関係を実現するために、教育デザインの1コースとした。また、臨床心理士の養成と特別支援教員の養成に関しては、一般教員とは別種の専門性が要求されるので、別途の「特別支援・臨床心理コース」とした。それぞれのコースの概要は次の通りである。

(1) 教育デザインコース（募集人員：85名）

初等・中等教育の根底にある人間と社会の再生産の理念と、理念を各教科において具体化することを目的として、教育科学と教科教育学と教科内容学を接合していくために教育デザインコースを構想した。新たな教育方法・教育理念を開発しデザインするのが目的である。

このコースでは、各教科の専修免許状取得が可能である。それぞれの免許状に対応する形で教科の学問領域が体系化されており、選択科目が設置されている。教育職員免許法に従って20単位の専門科目を選択することによって、科目の専門領域を体系的に学ぶことができる。専修免許状取得のための24単位のうち残り4単位は課題研究によって履修する。指導教員のもとで学生それぞれが定めた研究テーマに取り組み、修士論文（あるいは特定の課題についての研究）を作成する。

一方、本コースは、教育科学・教科教育学・教科内容学をそれぞれ4単位選択必修として、それぞれの学問領域が教員養成・教師教育にいかに関わっていくかを学ぶ。履修については、コア科目担当教員の指導のもと、いまだ分立している学問領域を、大学教員と学生が協働して教育学研究科にふさわしい新たな「学」へと練成していくことになる。学問領域の接続と、学校現場での検証・応用を行うため、コア科目及び教育インターン科目については、担当教員だけでなく副担当教員を必須とする。主担当教員と副担当教員は教育科学・教科教育学・教科内容学のうち2つの学問領域から選ぶことになる。さらに、「教育インターン」を受け入れる附属学校教諭との連携によって、学問研究と教育現場との往還を図る。

現在、さらには近未来に有用な新しい教育方法・教育理念を研究開発、すなわちデザインするのがこのコースの目的である。

(2) 特別支援・臨床心理コース（募集人員：15名）

特別支援学校教諭専修免許状取得、臨床心理士資格取得のための高度な専門的能力獲得を目的としたコースである。臨床心理士は教員養成と直接関係をもたないものの、教員養成を行う大学院において臨床心理士の養成コースをもつことで、子どもの教育や子どもを取り巻く環境を学んだ臨床心理士を養成することができる。労働現場を対象とする臨床心理士においても精神病理学的な運用能力だけでなく、労働と経済の乖離など、労働を取り巻く深い認識が必要であるのと同じく、子どもや教員に関する環境を取り巻く深い認識が必要であるのと同様である。現在、発達障害など、心因的なものや器質的なものとの協働に必要な障害児・者が普通学級で学ぶ流れが広がっており、力動的心理学と特別支援教育の連携が必要であるので同一コースとした。発達障害において知的障害と精神障害、家庭・社会環境など原因は複合的であり、また、身体障害、知的障害に対する精神的ケア、家族に対するケアも含め、臨床心理士において、発達、学業、生活の広範囲な精神的支援を行う学校臨床心理士の需要は高く、臨床心理士養成と特別支援の協働を密にすることは急務である。

このコースは、主として学校教育における特別なニーズのある子どもの心身の発達を支援する専門家の養成を行う特別支援教育専修（募集人員10名）と、学校・家庭・地域など幅広い臨床現場において心の悩みや病理に対して専門的に対応する臨床心理士の養成を行う臨床心理学専修（募集人員5名）に分かれ、それぞれの実践的能力の獲得を目的とする。

C) 学生定員

過去5年間（平成16～20年度）の教育学研究科の進路実績は、教員が70名程度、教育関係の職業への就職が10名程度、進学が10名程度、施設の指導員・地方自治体の福祉専門職・公的相談機関の相談員等への就職が10名程度など、合計100名程度の修了生が教育関係職に就職している。また、過去5年間（平成17～21年度）の教育学研究科の入学定員数は約130名で、その内訳は、学校教育課程及び他課程・他学部卒業者が30～40名、他大学30～40名、現職教員30名程度、その他30～40名であるが、そのおよそ30名程度は、教員への就職を希望しない教育人間科学部の新課程（地球環境課程、マルチメディア文化課程、国際共生社会課程）卒業生及び他大学からの入学希望者である。これら新課程の卒業生等は、平成23年度から教育学研究科が教員養成に特化され、新設予定の大学院へ進学が見込まれることから、100名の学生定員は適正なものである。さらに、教育学研究科で実施されるコア科目や附属学校との連携による「教育インターン」など、その教育が目指す「人間と社会の再生産」のための様々な個別学問と現場経験を統合した実践的な教育の効果をあげるためには、大学教員と附属・地域学校教諭との教育現場での連携と大学教員と学生の協働を効果的に実施できる適正な規模の学生定員の設定も必要となる。このことから、100名の入学定員を充足することは十分可能である。なお、学校教育課程卒業生のうち、環境情報学府及び他大学大学院に進学する者は10名程度いるが、他大学からの入学者が30～40名で安定していることから、本大学卒業生、現職教員以外の入学者の見直しに大きな変化はないと思われる。

なお、教育デザインコースと特別支援・臨床心理コースの募集人員は、85名/15名の配分を想定している。現在の学校教育臨床専攻（学校教育臨床分野/臨床心理学コース）の入学定員は昼間主・夜間主両コースを合わせて定員9名であり、そのうち学校教育臨床分野4名の定員は教育デザインコースに移行し、臨床心理学コース5名が特別支援・臨床心理コースに移行することになる。一方、特別支援教育専攻の現在の定員は昼夜合わせて8名である。現在の臨床心理学コースと特別支援教育専攻の定員を合わせると13名であるが、この両分野の社会的ニーズが高いことを考慮し、このコースの募集人員を15名とした。

修了者に関しては、現在、現職教員への復職を含め教員及び教育関係への就職者及び進学者が90名程度いる。また、現在の学校教育臨床専攻臨床心理学コース、特別支援教育専攻の修了者で、教員及び教育関連職以外の公務員及び福祉・医療等の法人等に就職し、精神や身体へのケアに関わる職務に従事し、研究科設置の目的を果たしている者が10名以上いる。

神奈川県、横浜市、川崎市、さらには新たに政令指定都市となった相模原市を要する神奈川県の教員採用予定者数は、神奈川県の教員需要（小学校、中学校）では平成22年度から平成31年度までの予測では、年間1500～2000人程度の規模を堅持している。さらに、『神奈川県人材確保・育成基本計画』の中でも、「高い指導力と意欲を持つ教職員の確保・育成を進めるため、各種施策が盛り込まれ、教員志望者支援施策（仮称）（大学と連携し、神奈川県内の学校において、実際に教員の仕事を体験する場を提供することで、教員志望者への支援を行う）や、大学推薦制度の充実などの教員採用試験の見直しなどが展開されることになっており、本研究科が目指す育成人材への需要は高い。

以上の点からも、教育学研究科の定員100名は妥当であると考えられる。

D) 育成人材像

教育学研究科で育成する人材像としては、①得意分野を持った個性豊かな教員、②問題解決能力と臨牀的実践力を備え、広い視野と柔軟な発想を持った教員の育成を目指している。学部における「教育実習」「介護体験」「教職実践演習」と大学院における「教育インターン」を教育デザインセンターが統括することによって、従来から学部教育の特色であった体系的・段階的な教育現場での実習が更なる整備を見ること、そして、学部における基礎的な教育科学・教科教育学・教科内容学の履修が大学院において創造的な知へと展開すること、この2つによって、創造性・応用性を備えた教科専門能力と学校現場・地域社会につながる問題解決能力を備えた人材を育成することができる。実際には学部における基礎的な能力に、創造性・応用性を備えた教科専門能力が学校現場・地域社会につながる問題解決能力かそのいずれかを得意とすることになるであろうが、これによって、教育現場において、教科専門性か実践性のいずれか、あるいはその両方において、他の教員と協働ないし他の教員を指導するリーダー的な人材の育成を図ることができる。

II 教育課程編成の考え方・特色

A) 教育課程の基本構成と特色

研究科を1専攻にし、教育科学・教科教育学・教科内容学の連携を行うことは、単なる融合を目的とするのではない。異なる研究分野の独自性を重視しつつ、学校教育の根底にある人間と人間社会の再生産を根底に据えた「学」として教師教育・教員養成の学を組織化することなのである。そのことによって、さまざまな学問の間の横断が可能となり、真の意味での「総合的な学習」が意味を成すことになる。

① 教育科学・教科教育学・教科内容学の連携の強化

② 現在の9専攻の区別を横断する基盤の探求と各教科存在の意味の再創造、共通の基盤の上に立った教科間の連動

③ 大学教員と附属・地域学校教諭との教育現場での連携・協力による体系的で実効的な教育課程の編成

以上の3点を推進することで、「実践性」と教科「専門性」を備えた学生を育成する。これを具体化するため、共通科目のコア科目によって、実習活動中心の「教育インターン」と、学術研究中心の「教育科学科目群」「教育開発科目群」「教科内容科目群」の選択必修を教員の支援のもとに学生自身がデザインし、最終的には、修了研究へと結実させる。修了研究は、学校教育の課題につながる研究課題に取り組み、教育デザインフォーラムなどで活動報告・学会発表・学術論文などの成果を社会的に公表し、外部のまなざしによって検証を受けることとする。

以上の実践性と専門性を備えた学生を育成するという点については、「特別支援・臨床心理コース」においても強く求められているところである。昨今の教育現場の状況を鑑み、特別支援教育と臨床心理学とが総合的に連携しながら協働して、多様なニーズをもつ子どもへの適切な対応や保護者・地域の問題解決を図っていくために、高度な実践性と専門性を備えた学生を養成する。共通科目のコア科目「教育デザイン」、実習活動中心の「教育インターン」、学術研究中心の「特別支援に関する科目」もしくは「臨床心理に関する科目」の選択必修を、教員の支援のもとに学生自身がデザインし、最終的に修了研究へと結実させる。学校教育の課題のみならず広く保護者や地域をも視野に入れた研究課題に取り組み、これらの成果は教育デザインフォーラムなどでの活動報告・学会発表・学術論文などとして公表し、広く社会的な検証を受けることとする。

学生は、本教育学研究科受験に際し、自らが取り組む研究課題を目的や研究方法に応じて「デザイン」していくことが求められる。そのために入学試験のための「研究計画書」では、「授業・単元デザイン」「教材・教員デザイン」「人間と発達デザイン」「地域と学校デザイン」に応じて具体的な記載をする必要がある。1年次では、研究計画に合致するコア科目担当教員のもとで、コア科目「教育デザイン」に取り組み、その成果を「教育インターン」、あるいは地域実践活動において、検証する。さらに2年次においては、コア科目での成果を踏まえて課題研究に取り組み、修士論文（あるいは特定の課題についての研究）を作成する。当初から教育に関する問題意識と問題解決の意欲を持たせ、教育現場における実践を通じて、それを検証し、さらなる問題意識と問題解決への意欲へと結び付けるのが、教育デザインの求めることである。

現職教員の学生（14条派遣）は、派遣元の教育委員会の要望を踏まえて本人との相談を行い、研究テーマ、研究計画が入学前に明確に設定されており、各教育委員会が大学院での学修に求める、学校現場の課題を解決するための研究に積極的に取り組むことになる。

(1) コア科目・「教育デザイン」

本教育学研究科は、「教育デザイン」という概念を鍵概念として構成されている。「教育デザイン」は、教育科学・教科教育学・教科内容学との関係、あるいは、理論・実践の関係などさまざまな関係を「実践的に」変革し、教員養成・教師教育に即した新たな教育方法・教育理念を研究・開発すること、新たな教育のかたちを構築することを目的としている。

本教育学研究科の共通コア科目「教育デザイン」は、後述の4つのジャンルに基づき、学生が自らの研究課題を具体的な学校教育の課題と照合し、教育科学・教科教育学・教科内容学それぞれの分野から目的性をもった科目履修を行うよう指導し、新たな教育方法・教育理念を研究・開発する方向性のもと、学生が自らの研究課題に即して「教育デザイン」の理念を具体化するためのプロセスを構築する科目である。

教育デザインコース、特別支援・臨床心理コースのいずれにおいても、コア科目「教育デザイン」は、特定の教員の担当ではなく、研究所所属の全教員が担当し、教員と学生が協働することで、学生の研究を教員養成、教師教育の「学」として練り上げていく。旧来の専門研究の弊害を避け、教員養成、教師教育の「学」の方向性を担保するため、コア科目担当教員が副担当教員と連携して学生を指導するゼミ形式あるいはワークショップ形式の授業形態をとる。各教員は、「研究計画書」及び入学後の面接をもとに、学生の「教育デザイン」を実現するよう指導する。教員自身もまた、自らの教育・研究内容を学校教育の課題と照合し、自らの学問を新たな「学」へと練成していく。学生は、教員と協働し、授業や学級・学校・地域連携といった教育のプランとプロセスを設計していく。アウトプットを明確にするために、目的と方法と専門分野に応じて、学生は「教育デザイン」の担当教員と「授業・単元デザイン」「教材・教具デザイン」「人間と発達デザイン」「地域と学校デザイン」という4つのジャンルのいずれかについて研究を進め、具体的な検証のための教育インターンをはかる目的と方法意識でいかなる時期に行うかを決定する。教育インターンは、単なる教育実習とは異なり、学生が自らの目的と解決すべき課題を持って学校現場に赴き、コア科目担当教員の指導を受けつつ、その課題に取り組むための制度である。附属学校における「教育インターン」の他にも、地元公立学校、教育委員会、学部開講の学外活動・学外学習、地域交流科目などで検証を行うことが可能である。

コア科目においては、学生が自らの研究が学校教育においていかなる位置付けを持つのか認識を深めつつ研究と履修を行っていくことになるが、学校教育のいかなるカテゴリーのいかなる段階に属しているのかを知るために、横浜スタンダードを活用する。これはまた、横浜スタンダードの実用性に関する検証ともなり、教育デザインセンターの研究デザイン部門において横浜スタンダードの活用のための研究を推進する意味もある。また、従来の学問に制約されない授業であるため、教員もまた、横浜スタンダードを活用して、体系的な評価基準を導入し、指導・成績管理を行う。

ア) 授業・単元デザイン

授業そのものや、まとまった単元についての諸問題を取り扱う。学部教職科目や教育実習等で習得した授業づくりや単元のカリキュラム設計に関する基礎的な知識・技能をもとに、学習者の確かな理解を目指す授業やカリキュラムの創造に向けて、授業・カリキュラムの具体的な開発と提案、授業実践等による検証、問題点の修正と再構築を研究する。授業やカリキュラムの創造・開発にあたっては、授業実践を通じて教師、学習者、教材といったさまざまな視点から検証し、授業や単元を具体的に設計していく。そのことによって、教師、学習者、教材といったさまざまな視点についての理解・認識を深め、授業や単元の研究に活用する。

イ) 教材・教具デザイン

授業で取り上げる教材や使用する教具に関する開発を行う。学部専門科目等を通じて習得した各教科に関する基礎的な知識や教材製作に関する技能をもとに、学習者の豊かな学びを実現する教材の製作、教具の開発とそれらの活用方法などについて、授業実践に即して提案していくことを目指す。授業実践や具体的なカリキュラムの中で教材・教具を提案することによって、教材・教具の有効性について理解・認識を深める。

ウ) 人間と発達デザイン

教育が対象とする子どもや青年がいかなる存在であり、いかなる発達過程をたどるのかを研究する。子どもや青年がさまざまな関係の中で人間として発達する過程と、自立の問題に関する支援のあり方を、教育インターンなどを利用して、学校などの教育現場における子どもや青年の観察や交流を通じて検証する。また、教育科学、教科教育学、教科内容学それぞれの人間観・発達観の差異と同一性の研究も重要なテーマとなる。

エ) 地域と学校デザイン

子どもを取り巻く環境について、教育インターンや学外活動・学外実習などを利用して、実際に地域社会と関わり、地方自治体における公立学校、地域と学校の連携協力のあり方などを、各自が研究課題を明確にしてデザインし、実際に地域社会に関わることで実証する。また、子どもを取り巻く環境としてメディア的環境も重要なテーマとなる。

(2) 教育インターン科目

コア科目の学習を教育現場で検証し、検証によってさらなる研究の深化を図るためにコア科目と連動して、教育インターン科目を配置する。教育インターン科目は1日8時～16時の実習を6回学習することが基本となる。これをもとに、本教育学研究科の特色として現職教員や他大学出身学生が多いことから、学生個々人の経験に応じた履修内容と、学生個々人の研究に応じた履修頻度を選択可能にする。

教育インターンには①（長期型:週1日6週間）・②（中期型:週2日3週間）・③（短期型:週3日2週間）の3タイプがある。学生はコア科目主担当教員の指導のもと、教育デザインセンター実践デザイン部門の教育インターン担当のコーディネーターを通して、附属学校の担当教諭を決め、適切な時期に教育インターンを実施する。指導に当たっては、主担当教員（1年次においてはコア科目主担当教員・2年次においては修了研究主指導教員）・副担当教員（1年次においてはコア科目副担当教員・2年次においては修了研究副指導教員）・附属教諭が連携し、協力体制をとる。

実習経験を深めたい学生は、3タイプの教育インターンに関して、同タイプ・別タイプの教育インターンを複数履修することができる。

実習経験の豊富な学生、現職教員の学生等、意欲と準備の認められる学生には、早期に教育インターンを開始し、複数履修の機会を最大限活用して、成果の深化や関連問題への展開を行えるよう、1年前期にも配当しているが、教育インターン履修のための準備が必要な学生については、コア科目を通じた指導のもと、1年後期以降の履修となる。

たとえば、本学学部の学年段階的な実習や横浜スタンダードを活用した実習を経て大学院に入学した学生や教育現場などの問題に関して明確な問題意識をもって入学した現職教員や有職者の場合、大学院の修業年限が2年であることを考慮して、入学時の面談に基づき、コア科目履修と並行して、1年前期からの教育インターンを認める場合がある。

教育インターンは、3タイプともに、1日8時間の教育現場における実習を6回、それに加えて、2時間を3回的主・副担当教員による指導で構成される。6週間・3週間・2週間の期間内の実習日の決定は、教育インターン登録の上、教育デザインセンターのコーディネーターに計画書を提出して決定する。実施終了後、実施報告書を提出し、計画書と報告書をもとに主担当教員・副担当教員が協議して、成績認定を行う。

「特別支援・臨床心理コース」においても、コア科目の学習を教育現場及び相談機関で検証し、更なる研究・実践の深化をはかるために、教育インターン科目を配置する。

特別支援教育においては、この教育インターン科目では、高度な専門的学術研究に基づき、特別なニーズをもつ子どもに対して適切で具体的な総合的支援のための実践性を身に付けた学生の育成をめざしている。

教育インターン科目「特別支援教育実地指導」は、指導教員の支援のもとで、特別支援学校や特別支援学級さらには通常の学級に赴き、多様な特別なニーズをもつ子どもの実態を理解し教育現場における課題を探求するための実践教育として位置づけている。

教育インターン科目「特別支援教育臨床実習」は、指導教員の支援のもと、附属特別支援学校との連携協力のもと、附属特別支援学校において、児童生徒の行動観察、教育実践計画の策定、教材教具の作成、チームティーチングの方法などを含めた高度な教育実践をめざす実習科目として位置づけている。

教育インターン科目「障害児ケース支援研究」は附属特別支援学校のみならず、小中学校における通常の学級において特別なニーズのある子どもをも対象として、個別的なアセスメントをはじめとして、個別支援計画の策定、教育実践、評価等を含んだ一連の総合的な実践力を育成するために配置している。

これら3科目はそれぞれ2単位、合計6単位として設定し、この中から2単位以上を選択取得することを必修とする。

また、臨床心理学専修の教育インターン科目である「学校臨床実習」においては、学校臨床実習担当教員の指導のもとで教育現場に赴き、さまざまな問題・症状を呈する子どもの心理的理解及び、本人や保護者、教育現場への支援や対応について学び、臨床心理士として求められる心理アセスメントや心理相談の技能や態度を身につける実践教育として位置づけている。

教育インターンの目的の明確化にあたっては「横浜スタンダード」の評価基準を活用する。学生は「横浜スタンダード」の基準に従い自己評価する。「横浜スタンダード」は、学部の実習科目（初等教育フィールドワーク研究）の評価基準として用いられてきた。「横浜スタンダード」を利用することは、学生自身の自己評価、および学生同士の相互評価（話し合い）における観点として有効であるとともに、学生が教員としてキャリア形成していくための指針となる。「スタンダード」はあくまで標準として教員の資質・能力を示したものであるが、学生はそのときどきの自らの力量を「スタンダード」に突き合わせることで、自らの課題を発見するとともに、自らの長所・利点を見出し、具体的な教師像を描いて行くことができるのである。

学生は、自らの研究課題を携えて、学校現場での観察や支援活動を行う。活動後の振り返り学習の話し合いの中で、実習先の附属学校教諭や他の実習生たち（学部学生を含む）とともに、正解が一つでない多様な視点で議論をすることになるが、そうした場でこそ、スタンダードが手がかり、足がかりとして活用されるのである。

また、教員養成GP「横浜スタンダード開発による小学校教員養成」による、横浜市教育委員会・拠点小学校と連携した、「横浜スタンダード」の共同開発と大学授業の評価・改善、拠点小学校におけるスーパーヴァイザー（退職校長等）を活用した実習支援、現場ニーズに応じた大学授業科目の開講等の実績を踏まえ、地域の公立学校の教育実践上の課題解決や教職員の力量向上に繋がる仕組みとして、「教育インターン」を公立学校で行うことについて、教育委員会等と意見交換・協力要請を行い、おおむねの賛同を得る予定である。平成22年3月の神奈川県教育委員会と中高大連携の会議（中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築にかかる実践研究会）では、教育学研究科の学生で教員免許状をもたない学生が教員免許状を取得するための教育実習に光陵高校を使うことについて、教育実習前の年次に、現場でのインターンを行う取り決めを締結した。これは、教育インターンの試行という位置付けである。附属学校及び光陵高校との連携実績を重ねることで、将来的には他の公立学校に対する拡大も視野に入れて神奈川県教育委員会等と検討を進めることとしている。

なお、夜間を主とする有職学生、現職教員の学生に関しては、勤務校や他の公立学校における授業研究などによって、「教育インターン」科目履修の代替とすることができる。

（3）選択科目

選択科目は、専修免許状取得のための教職あるいは教科の科目である。教育科学科目群・教育開発科目群・教科内容科目群の枠から4単位を選択必修とする。専門領域（教育学・心理学及び各教科）の体系的な学習の他に、自らの教育デザインに基づき、専門領域を横断して科目を履修することで、教育の基盤に常に立ち返るとともに、新しい視点と知識を習得して、より自由な立場と発想から、自らの教育をデザインする力を練成していく。教育科学・教科教育学・教科内容学は多岐にわたるが、以下、本教育学研究科で強調する方向性をあげる。それぞれの科目群が一定の特徴をもつことで単なる融合ではない、協働関係が生み出される。

① 教育科学科目群

専修免許状の教職に関する科目に対応する主なものとして教育科学の科目群である。教育の諸科学・教育の哲学に関して文献や情報を読解し分析する力を養うことで、研究や実践の諸課題を見出すにとどまらず、教育と人間の根幹に立ち戻って、学校教育における学問成果の具体化を志向する。

② 教育開発科目群

専修免許状の教科に対応する主なものとして教科教育学の科目群である。この科目群は、新たな教育実践の開発・創出に向けて、各教科の授業実践力やその省察力の育成を目的とした「教科教授法講義・演習」と、授業の構想・構築力の育成を目的とした「教科カリキュラム論講義・演習」によって構成される。この科目群の授業は、生きた実践に足場を置くかたちで、すなわちコア科目や教育インターンとの連携を目指しながら展開される。

③ 教科内容科目群

専修免許状の教科に対応する主なものとして教科内容学の科目群である。教科内容科目群は、学校教育における教科への配置を踏まえ、教科内部での他の教科内容学との連関を志向するとともに、教科内容の基盤となる学問の現代的な展開を吸収し、教科を越えた他の教科内容学との連関を志向する2つの方向性をもつ。

（4）特別支援教育と臨床心理コースの専門科目

特別支援教育に関する科目は、特別支援学校教諭専修免許状取得に対応して、障害学を基礎として、知的障害、肢体不自由（運動障害）、病弱、言語障害、聴覚障害などの多様な障害に関して、教育学、心理学、精神病理学などの研究領域から高い専門性が幅広く履修できる科目を設定している。

また臨床心理に関する科目は、日本臨床心理士資格認定協会の指定校認定基準に対応し、臨床心理学を基礎として、臨床心理以外の心理学、心理研究法、精神医学、臨床心理実践法などの研究領域から、臨床心理士養成に求められる高い専門性が幅広く履修できる科目を設定している。

(5) 各コースのカリキュラムの共通の特色

教職・教科専修免許状・臨床心理士資格に対応する体系性を確保した上で、1専攻による教育の実践性、2コースによる教育科学・教科教育学・教科内容学の連携（教育デザインコース）と高度な専門性の連携（特別支援・臨床心理コース）を実現する。

1年次に取り組んだコア科目における研究テーマを、2年次においてより高度化、深化、発展させる形で、各自課題研究（4単位必修）に取り組み、修士論文あるいは特定の課題についての研究を完成させる。

(6) 修士論文あるいは特定の課題についての研究

修了課程の修了にあたっては、修士論文または特定の課題についての研究に関して審査を受け、最終試験に合格することを要件とする。

教育デザインコースにおいては、修士論文は、学校教育との関連をもった教育科学、教科教育学、教科内容学のいずれかを軸とした研究とする。特別支援・臨床心理コースにおいては、修士論文は、特別支援教育学、臨床心理学にかかわる研究とする。成果は、教育デザインフォーラムの大会において公表し、地域・附属教員、大学院生、大学教員など多様な視点で検証を受ける。

「特定の課題についての研究」は、現職教員や教育関連職従事者の実践活動報告、授業研究など、主として学術論文以外の形式によって行われる成果を指す。特定課題についての研究は、研究科教授会の承認を経た上で、修士論文に代えることができるものとする。

(7) 履修の流れと教員の意識改革

履修の流れは、コア科目から選択必修科目及び選択科目に向かうとともに、学問的学習の検証を行う教育インターン科目に向かう。この2つの流れが、課題研究で合流し、1つのサイクルをなす。そこから別のサイクルが始まる。学生が課題研究を公表することによって、課題研究の教育実践との関わりが検証され、学生の評価を通して大学教員の指導力が測られる。これは大学教員自身に対する点検・評価の機能をもち、コア科目担当教員・課題研究指導教員の意識改革につながるFD効果を最大限に高めるものであると思われる。こうして、コア科目や選択（必修）科目、教育インターン科目の内容が充実されていくことになる。

B) カリキュラム改革を進める仕組み

(1) 教育デザインセンター

現在の教育実践総合センターは、神奈川、横浜、川崎の各教育委員会と連携して、地域に対する教育上の貢献・支援を行ってきた。

しかし、平成18年の中教審答申における全学的なカリキュラム委員会設置の提言、さらに教職実践演習の必修化は、大学における教員養成に大きな変革を迫るものである。横浜国立大学では、教員養成の全学的な質保証のために「教員養成カリキュラム実施担当者会議」を全学の教育委員会のもとに置くとともに、その具体的な内容の遂行は、学校教育課程を擁する教育人間科学部が担当することとなった。すでに工学部の理数高等学校免許への協力、全学的な教職実践演習の支援が進行しているものの、さらなる組織的な対応が喫緊の課題となった。

一方、教職実践演習の施行に伴い、学校教育課程では4年間を通したカリキュラムの検討を行い、附属学校を中心とした体系的・段階的教育実習のために新たなカリキュラムを平成22年度入学生から適用することとなった。そして、修士論文のための研究が中心であった教育学研究科を、コア授業科目・「教育デザイン」や「教育インターン」を通して、学生のキャリア形成のための教師教育、教員養成中心へと変換することとした。その結果、教育実習や教育インターンの実施及び附属学校の重点的活用を管理・運営していくための組織的な対応が課題となった。

以上の2点を主たる理由として、地域連携を中心としていた附属教育実践総合センターを改組し、実践デザイン部門（教員養成・地域連携）と研究デザイン部門（教育デザイン研究）を擁する教育デザインセンターに改組することとした。実践デザイン部門（教員養成）は、教育実習・教育インターンの管理・運営と全学的教員養成の管理・運営及び学校教育課程と新理工学部との理数系教育連携を担当する。こうした実践デザイン部門の充実が平成18年の中教審答申、教職実践演習必修化に対応するものである。

一方、こうした教員養成の改革を主導してきたのは、平成21年4月以前においては教育学研究科改組のためのWGであったが、4月以後はこのWGのもとに組織されたサブWGの「教育デザイン研究会」である。教育デザイン研究会は、現在の教育学研究科における教科教育学と教科内容学の連携に加えて、教育の社会的基盤と教科への具体化の連携を図るために、教育科学と教科教育学と教科内容学の接続による教師教育、教員養成のための新たな「学」、まさに教育学研究科の対象とする「学」の必要性を提案するに至った。教育デザインセンターの研究デザイン部門（教育デザイン研究）はこうした「学」（仮称教育デザイン学）を開発し、その成果を実践デザイン部門（教員養成）に橋渡しして、教員養成の更なる充実を図るための研究組織である。この研究部門の設立は、大学院の研究を学部の授業へとフィードバックする機能を持ち、横浜国立大学の教育デザインセンターをきわめて比類なきものとする要因になると考えられる。

(2) 教育デザインフォーラム

教育デザインセンター研究デザイン部門（教育デザイン研究）は、開放的な組織である教育デザインフォーラムを主催する。教育デザインフォーラムは、教育学研究科学生、大学教員、附属学校教諭・地域教諭が連携して、教育現場の諸問題について議論・研究・公表する場である。教育デザインのフォーラムの教育実践・教育方法、初等・中等・高等教育（教員養成）のカリキュラムなどに関する提言は、教育デザインセンター研究デザイン部門（教育デザイン研究）を通して、一方では教育デザインセンター実践デザイン部門（教員養成）で具体化され、一方ではコア科目やその他の科目の高度化によって具体化される。また、教育デザインフォーラムは大学、附属学校、地域、社会の開かれた接点として、本教育学研究科で行う先進的な教育・研究の成果を発信し、地域の検証や評価を受信するハブとしての機能を担う。

C) 入学者選抜の概要と具体的方策

(1) アドミッションポリシー

- ① 将来の進路として、初等・中等学校の教員、大学院博士課程後期進学、教育関連職就職を目指す人。
- ② 大学教員・学生・附属学校教諭三者連携による「教育デザイン力の育成＝現代・近未来社会における高度な教育実践に寄与できる教員の養成と、それを支える先進的な教育研究」に参画する意思のある人。
- ③ 学部において専門領域や学科の基礎的な知識や能力をしっかりと身につけ、読解力・判断力・思考力などを用いて、柔軟に、自由に、諸問題に取り組み、独自の教育デザインを構築することを希望する人。

(2) 入学者選抜の概要

入学試験は、コース別の共通問題と専門領域（教育学・心理学、各教科、特別支援、臨床心理）別の選択問題を課し、これに研究計画書による書類審査と面接試験を加え、その総合成績によって可否を判定する。
 募集は特別支援・臨床心理コース15名、教育デザインコース85名とする。各コースとも専門領域ごとに合格者数の目安を標準数として定め、各専門領域で一定数の合格者を確保する。
 共通問題はコースごとに論述形式で行う。選択問題は、専門領域ごとに作成し、それぞれの領域における知識・読解力・思考力・応用力などを問う。
 研究計画書・面接試験によって、研究の将来的な展望と可能性、研究・実践に携わる者としての資質、取り組みの姿勢などを審査する。
 研究計画書には、教育デザインの4アプローチに沿った記述を求め、研究に対する姿勢を評価する。
 現職教員・教育関連職従事者（有職者）で研究業績を有する者の受験の場合は、審査によって、専門領域選択問題の筆記試験を免除することがある。
 他に推薦入学試験（若干名）を行い、現職教員・教育関連職従事者（有職者）の入学に配慮する。

(3) 昼夜開講制：現職教員・教育関連職従事者（有職者）の受け入れの具体的方策

現在、現職の教員や社会人の便宜を考えて昼間主と夜間主に分けた入試単位で学生の募集を行っているが、実際には、本務との関係で時間割の調整が必要が多く、必ずしも現職教員や教育関連職従事者にとって利便性が高いとはいえない。コア科目、課題研究は、コア科目担当教員、指導教員が学生と相談の上個別にカリキュラムを設定し、職務に差し支えないかたちで研究指導可能なシステムを導入する。選択科目については昼夜開講制で対応し、現行の長期履修制度も存続させる。

(4) 昼間主コースと夜間主コースの募集人員区分の変更の理由

現在、現職教員や社会人の便宜を考えて昼間主と夜間主に分けて学生募集を行っており、勤務の都合を考慮して平日夜間（17時50分～20時55分）、土曜日及び長期休業期間に開講している。このため、現職教員等の勤務時間の多様性に対応して、土曜日に必修科目を開講し、時間割を変更し対応しているが、その結果が他の院生の学習に支障を与えることになり、結果的に夜間主のカリキュラムの固定化を招いている。については、現職教員と社会人の修学については、募集時に昼夜開講制であることを明示し、現在130名の定員で30名程度の入学者がいることから、募集人員の4分の1程度を、夜間を主体とする学生の受け入れ枠として確保し（募集要項上明記）、指導教員との相談の上で、履修体制を整え、開講を学生の都合のよい時間帯に移すなど柔軟な時間割構築を行うことにより、実質的な利便性を高める。

卒業要件及び履修方法		授業期間等																					
【修了要件】 2年以上在学し、30単位以上を修得し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の審査及び最終試験に合格すること 【履修方法】		1 学年の学期区分	2 学期																				
		1 学期の授業期間	1 5 週																				
		1 時限の授業時間	9 0 分																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>教育デザインコース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育デザイン</td> <td>4 単位必修</td> </tr> <tr> <td>教育インターン</td> <td>2 単位必修</td> </tr> <tr> <td>*課題研究</td> <td>4 単位必修</td> </tr> <tr> <td>*選択科目</td> <td>2 0 単位以上選択履修</td> </tr> <tr> <td>教育科学科目群</td> <td>4 単位以上選択履修</td> </tr> <tr> <td>教育開発科目群</td> <td>4 単位以上選択履修</td> </tr> <tr> <td>教科内容科目群</td> <td>4 単位以上選択履修</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 0</td> </tr> </tbody> </table>	コース	教育デザインコース	授業科目		教育デザイン	4 単位必修	教育インターン	2 単位必修	*課題研究	4 単位必修	*選択科目	2 0 単位以上選択履修	教育科学科目群	4 単位以上選択履修	教育開発科目群	4 単位以上選択履修	教科内容科目群	4 単位以上選択履修	計	3 0		
コース	教育デザインコース																						
授業科目																							
教育デザイン	4 単位必修																						
教育インターン	2 単位必修																						
*課題研究	4 単位必修																						
*選択科目	2 0 単位以上選択履修																						
教育科学科目群	4 単位以上選択履修																						
教育開発科目群	4 単位以上選択履修																						
教科内容科目群	4 単位以上選択履修																						
計	3 0																						

コース	特別支援・臨床心理コース	
授業科目	特別支援教育専修	臨床心理学専修
教育デザイン	4単位必修	
教育インターン	「特別支援教育実地指導」、「特別支援教育臨床実習」、「障害児ケース支援研究」から2単位を選択必修	学校臨床実習2単位を必修とする。
*課題研究	4単位必修	
*選択科目	「知的障害教育学講義Ⅰ」「知的障害心理学講義Ⅰ」「運動障害心理学講義Ⅰ」「病弱教育学講義Ⅰ」「言語障害教育学講義Ⅰ」「聴覚障害心理学講義Ⅰ」「障害児精神病理学講義Ⅰ」の計14単位を含めて、特別支援に関する科目から20単位以上選択履修	「臨床心理面接特論Ⅰ」「臨床心理面接特論Ⅱ」「臨床心理学特論Ⅰ」「臨床心理学特論Ⅱ」「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理査定演習Ⅱ」「臨床心理基礎実習Ⅰ」「臨床心理基礎実習Ⅱ」「臨床心理実習」の9科目から10単位以上、臨床心理に関する科目について別に定める5つの選択必修科目群からそれぞれ2単位以上合計10単位以上、合わせて20単位以上を選択必修
計	30	30

*専修免許取得単位

特別支援・臨床心理コース（臨床心理学専修）の別に定める5つの選択必修科目群

A	心理学研究法特論、心理統計法特論
B	学習心理学特論、認知心理学特論、発達心理学特論、教育心理学特論
C	臨床心理関連行政論、社会心理学特論、人間関係特論、家族心理学特論、犯罪心理学特論
D	精神医学特論、心身医学特論、精神薬理学特論、
E	心理療法特論、学校臨床心理学特論、投影法特論Ⅰ、投影法特論Ⅱ、グループ・アプローチ特論

教育課程等の概要														
(教育学研究科学校教育臨床専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究 専 門 科 目	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専 攻 必 修 専 門 科 目	教育実践学講義	1・2前	2			○			1					
	臨床生徒指導演習	1・2後	2				○		1					
	課題研究	2後	2				○		5	3				
	小計(3科目)	—	6						5	3				
専 攻 選 択 専 門 科 目	教育臨床支援実習A	1・2通		2				○	1					
	教育臨床相談演習	1・2後		2			○			1				
	心理療法特論	1・2前		2		○				1				
	教育臨床支援実習B	1・2通		2				○	1					
	フィールド研究技法演習	1・2後		2				○	1					
	情報教育論講義	1・2前		2		○			1					
	学習ネットワーク構成論演習	1・2後		2			○		1					
	学校心理学演習	1・2後		2			○			1				
	家族療法技法講義	1・2前		2		○			1					
	家族療法特論	1・2前		2		○			1					
	教育臨床面接技法演習	1・2後		2			○		1					
	臨床心理面接特論Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	臨床心理面接特論Ⅱ	1・2後		2		○				1				
	発達運動学講義	1・2前		2		○			1					
	ムーブメント教育療法演習	1・2後		2			○		1					
	教育社会臨床講義	1・2前		2		○					1			兼1
	教育社会臨床演習	1・2後		2			○				1			兼1
	発達心理学概論	1・2前		2		○			1					
	発達臨床心理学演習	1・2後		2			○		1					
	カウンセリング概論	1・2前		2		○				1				
	カウンセリング演習	1・2後		2			○			1				
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	精神医学特論	1・2通		2		○					1			兼1
	臨床心理査定演習Ⅰ	1後		2			○			1				
	臨床心理査定演習Ⅱ	2後		2			○			1				
	臨床心理基礎実習	1通		2					○	1				
	臨床心理実習	2通		2					○	1				
	教育人間学演習	1・2後		2			○			1				
	言語とコミュニケーション論演習	1・2後		2			○			1				
	社会参加と社会科学学習論演習	1・2後		2			○			1				
	子どもの自然体験と理科学習論演習	1・2前		2			○			1				
	野外教育学講義	1・2前		2		○				1				
	社会心理学特論	1・2通		2		○					1			兼1
	犯罪心理学特論	1・2前		2		○				1				
	障害児・者心理学特論	1・2後		2		○				1				
	学習心理学特論	1・2前		2		○				1				
	心理学研究法特論	1・2前		2		○				1				
	心理統計法特論	1・2前		2		○				1				
	グループ・アプローチ特論	1・2後		2		○				1				
臨床教育心理学講義	1・2前		2		○				1					
心理教育的アセスメント演習	1・2後		2			○				1			兼1	
安心・安全文化教育論	1・2後		2		○				1					
発達心理学特論	1・2前		2		○				1					
投影法特論	1・2後		2		○					1			兼1	
ロールシャッハテスト演習	1・2後		2			○				1			兼1	
人間関係特論	1・2後		2		○					1			兼1	
学習モデル論講義	1・2前		2		○					1				
授業アセスメント演習	1・2後		2			○				1				
臨床心理関連行政論	1・2通		2		○					1			兼1	
体育心理学講義	1・2前		2		○				1					
スポーツ・カリキュラム評価論演習	1・2後		2			○			1					
	小計(52科目)	—	0	104	0			—	11	3	7	0	0	兼7
	合計(60科目)	—	6	114	0				12	3	7	0	0	兼7

教育課程等の概要														
(教育学研究科学校教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専攻必修	学校教育講義	1・2後	2			○			1					
	学校教育総合研究	1・2前	2			○			1	1				
	課題研究	2後	2				○		5	4				
	小計(3科目)	—	6						5	4				
専攻選択専門科目	教育哲学講義	1・2前		2		○			1					
	教育人間学演習	1・2後		2			○		1					
	教育社会学講義	1・2前		2		○				1				
	教育社会学演習	1・2後		2			○			1				
	教育史講義	1・2前		2		○			1					
	教師教育論演習	1・2後		2			○		1					
	教育行財政学講義	1・2後		2		○			1					
	現代教育政策論演習	1・2後		2			○		1					
	教育問題論講義	1・2前		2		○			1					
	青少年問題論演習	1・2前		2			○		1					
	生涯教育学講義	1・2前		2		○				1				
	多文化教育論演習	1・2後		2			○			1				
	教育心理学講義	1・2前		2		○				1				
	心理データ解析演習	1・2前		2			○			1				
	認知発達心理学講義	1・2後		2		○			1					
	発達基礎論演習	1・2後		2			○		1					
	人格発達心理学講義	1・2前		2		○			1					
	青年期発達論演習	1・2後		2			○		1					
	学習心理学講義	1・2前		2		○			1					
	生態学的学習論演習	1・2後		2			○		1					
	心理学実験法	1・2前		2				○	1					
	心理アセスメント法	1・2後		2		○				1				
	心理臨床学講義	1・2前		2		○			1					
	精神医学講義	1・2通		2		○					1			兼1
	教育課程論講義	1・2前		2		○				1				
	生活科・総合学習演習	1・2後		2			○			1				
	学習モデル論講義	1・2前		2		○				1				
	授業アセスメント演習	1・2後		2			○			1				
	教育相談実践論	1・2後		2					1					
	小計(29科目)	—	0	58	0		—		8	4	1	0	0	兼1
	合計(37科目)	—	6	68	0				9	6	1	0	0	兼1

教育課程等の概要														
(教育学研究科特別支援教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専攻必修	障害学概論	1・2前	2			○				1				
	障害学総合研究	1・2後	2			○				1				
	課題研究	2後	2				○		6	1				
	小計(3科目)	—	6						6	1				
専攻選択専門科目	病気の子どもと家族講義	1・2前		2		○				1				
	病気の子どもと家族演習	1・2後		2			○			1				
	ことばの生物学講義	1・2前		2		○			1					
	言語障害心理学演習	1・2後		2			○		1					
	障害児メンタルケア論講義	1・2前		2		○			1					
	障害児メンタルケア論演習	1・2後		2			○		1					
	知的障害教育学講義	1・2前		2		○			1					
	知的障害臨床教育学演習	1・2後		2			○		1					
	特別支援教育臨床実習	1・2前		2				○	1					
	障害児行動スキル支援演習	1・2後		2				○	1					
	障害児・者心理学特論	1・2後		2		○			1					
	発達運動学講義	1・2前		2		○			1					
	きこえの障害の心理学講義	1・2前		2		○			1					
	ことばの障害の心理学演習	1・2後		2			○		1					
	知的障害心理学講義	1・2前		2		○			1					
	運動障害児認知発達論講義	1・2前		2		○			1					
	運動障害児認知発達支援法演習	1・2後		2				○	1					
特別支援教育実地指導	1・2前		2		○				1					
障害児ケース支援研究	1・2後		2		○				1					
	小計(20科目)	—	0	38	0		—		6	1	0	0	0	
合計(28科目)		—	6	50	0				8	3	0	0	0	

教育課程等の概要															
(教育学研究科言語文化系教育専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1						
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1						
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1					
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1					
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1					
	小計(5科目)			10					2	2					
専攻必修	言語文化系教育論講義	1・2前	2			○				1					
	言語文化系教育論総合研究	1・2後	2			○			1						
	課題研究	2後	2				○		8	4					
	小計(3科目)		6						9	4					
専攻選択専門科目	中国古典学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	中国古典学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	中国古典学講義Ⅲ	1・2前		2		○			1						
	中国古典学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	中国古典学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	中国古典学演習Ⅲ	1・2後		2			○		1						
	日本古典文学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	日本古典文学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	日本古典文学講義Ⅲ	1・2前		2		○			1						
	日本古典文学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	日本古典文学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	日本古典文学演習Ⅲ	1・2後		2			○		1						
	日本近代文学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	日本近代文学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	日本近代文学講義Ⅲ	1・2前		2		○			1						
	日本近代文学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	日本近代文学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	日本近代文学演習Ⅲ	1・2前		2			○		1						
	書写書道教育講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	書写書道教育講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	書写書道教育講義Ⅲ	1・2後		2		○				1					
	書写書道教育演習Ⅰ	1・2後		2			○			1					
	書写書道教育演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	書写書道教育演習Ⅲ	1・2後		2			○			1					
	日本語史講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	日本語史講義Ⅱ	1・2後		2		○				1					
	日本語史講義Ⅲ	1・2前		2		○				1					
	日本語史演習Ⅰ	1・2後		2			○			1					
	日本語史演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	日本語史演習Ⅲ	1・2後		2			○			1					
	国語教育教授法講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	国語教育教授法講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	国語教育教授法演習Ⅰ	1・2後		2			○			1					
	国語教育教授法演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	言語とコミュニケーション論演習	1・2後		2			○			1					
	国語教育教材論講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	国語教育教材論講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	国語教育史演習Ⅰ	1・2前		2			○			1					
	国語教育史演習Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	日本近現代語講義	1・2前		2		○					1				
	日本近現代語演習	1・2後		2			○				1				
	英語教育学講義Ⅰ	1・2前		2		○					1				
英語教育学講義Ⅱ	1・2前		2		○					1					
英語教育学演習Ⅰ	1・2後		2			○				1					
英語教育学演習Ⅱ	1・2後		2			○				1					
第二言語習得論講義	1・2前		2		○				1						
第二言語習得論演習	1・2後		2			○			1						
日英語比較論講義	1・2前		2		○				1						
日英語比較論演習	1・2後		2			○			1						
英語学講義	1・2前		2		○				1						
英語学演習	1・2後		2			○			1						
現代英米文学講義Ⅰ	1・2前		2		○					1					
現代英米文学演習Ⅰ	1・2前		2			○				1					
現代英米文学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1						
現代英米文学演習Ⅱ	1・2後		2			○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻 選択 専門 科目	東西文化交流論講義	1・2前		2		○				1						
	東西文化交流論演習	1・2後		2			○			1						
	ヨーロッパ文化史講義	1・2前		2		○				1						
	ヨーロッパ文化史演習	1・2後		2			○			1						
	宗教文化論講義	1・2前		2		○			1							
	宗教文化論演習	1・2前		2			○		1							
	表現文化論講義	1・2前		2		○			1							
	表現文化論演習	1・2後		2			○		1							
	文化現象論講義	1・2前		2		○					1					兼1
	文化現象論演習	1・2後		2			○				1					兼1
	比較言語学講義	1・2前		2		○				1						
	比較言語学演習	1・2後		2			○			1						
	比較意味論講義	1・2前		2		○				1						
	比較意味論演習	1・2後		2			○			1						
	比較統語論講義	1・2前		2		○			1							
	比較統語論演習	1・2後		2			○		1							
	日本語学講義Ⅰ	1・2前		2			○		1							
	日本語学講義Ⅱ	1・2前		2			○		1							
	日本語学演習Ⅰ	1・2後		2				○	1							
	日本語学演習Ⅱ	1・2後		2				○	1							
	日本語教育総合演習Ⅰ	1・2前		2			○		1							
	日本語教育総合演習Ⅱ	1・2後		2				○	1							
	日本語教育学講義Ⅰ	1・2前		2			○			1						
	日本語教育学講義Ⅱ	1・2前		2			○			1						
	日本語教育学演習Ⅰ	1・2後		2				○		1						
	日本語教育学演習Ⅱ	1・2後		2				○	1							
	日本語教育方法論総合演習Ⅰ	1・2前		2				○		1						
	日本語教育方法論総合演習Ⅱ	1・2後		2				○								
	英語教育統計法	1・2前		2			○				1					兼1
	英語教育データ解析	1・2後		2			○				1					兼1
	小計（85科目）		—	0	170	0			—	13	5	2	0	0		兼2
合計（93科目）		—	6	180	0				15	7	2	0	0		兼2	

教育課程等の概要														
(教育学研究科社会系教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専攻必修	社会系教育論講義	1・2前	2			○			1					
	社会系教育総合研究	1・2後	2			○			1					
	課題研究	2後	2				○		10	10				
	小計(3科目)		6						10	10				
専攻選択専門科目	社会科教育原論講義	1・2前		2		○			1					
	社会科授業構成論演習	1・2後		2			○		1					
	社会科教育史講義	1・2前		2		○				1				
	社会参加と社会科学習論演習	1・2後		2			○			1				
	社会科教育実践論講義	1・2前		2		○			1					
	地理教育演習	1・2後		2			○		1					
	自然地理学講義	1・2前		2		○				1				
	自然地理学演習	1・2後		2			○			1				
	人文地理学講義	1・2前		2		○				1				
	人文地理学演習	1・2後		2			○			1				
	地理学野外実習	1・2前		2				○		1				
	日本前近代史講義	1・2前		2		○				1				
	日本前近代史演習	1・2後		2			○			1				
	日本近代社会史論講義	1・2前		2		○			1					
	日本近代社会史論演習	1・2後		2			○		1					
	東洋史学講義	1・2前		2		○			1					
	東アジア社会経済史演習	1・2後		2			○		1					
	西洋史学講義	1・2前		2		○				1				
	西洋近代史演習	1・2後		2			○			1				
	アメリカ史講義	1・2前		2		○				1				
	アメリカ史演習	1・2後		2			○			1				
	哲学講義	1・2前		2		○			1					
	古典哲学演習	1・2後		2			○		1					
	倫理学講義	1・2前		2		○			1					
	環境と倫理演習	1・2後		2			○		1					
	現代社会思想論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	中国社会思想演習	1・2後		2			○		1					
	現代社会思想論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	ヨーロッパ社会思想演習	1・2後		2			○		1					
	社会思想史講義	1・2後		2		○				1				
	ロシア社会思想史演習	1・2前		2			○			1				
	現代憲法学講義	1・2前		2		○			1					
	現代憲法学演習	1・2後		2			○		1					
	現代人権論講義	1・2前		2		○			1					
	政治学講義	1・2前		2		○				1				
	国民国家論演習	1・2後		2			○			1				
	経済学講義	1・2前		2		○				1				
	現代経済論演習	1・2後		2			○			1				
	文化人類学講義	1・2前		2		○				1				
	エスニシティ論演習	1・2後		2			○			1				
	ジェンダー論講義	1・2前		2		○			1					
	比較ジェンダー論演習	1・2後		2			○		1					
	植民地文化論講義	1・2前		2		○			1					
	青少年政策史演習	1・2後		2			○		1					
	国際社会学講義	1・2前		2		○				1				
	国際移動論演習	1・2後		2			○			1				
	現代ヨーロッパ論講義	1・2前		2		○				1				
	現代ヨーロッパ論演習	1・2後		2			○			1				
	小計(48科目)		0	96	0				12	10	0	0	0	
	合計(56科目)		6	106	0				14	12	0	0	0	

教育課程等の概要														
(教育学研究科自然系教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専攻必修	自然系教育論講義	1・2前	2			○			1					
	自然系教育論総合研究	1・2後	2			○			1	1				
	課題研究	2後	2				○		11	5				
	小計(3科目)		6						11	5				
専攻選択専門科目	科学教育論講義Ⅰ	1・2後		2		○			1					
	子どもの自然体験と理科学習論演習	1・2前		2			○		1					
	理科学習論講義	1・2前		2		○			1					
	自然認識論演習	1・2後		2			○		1					
	物性物理学講義	1・2前		2		○				1				
	物性物理学演習	1・2後		2			○			1				
	地球化学講義	1・2前		2		○				1				
	地球化学演習	1・2後		2			○			1				
	有機合成化学講義	1・2前		2		○				1				
	有機合成化学演習	1・2後		2			○			1				
	植物学講義	1・2後		2		○			1					
	植物形態学演習	1・2後		2			○		1					
	動物学講義	1・2前		2		○			1					
	動物発生学演習	1・2後		2			○		1					
	地史学講義	1・2前		2		○				1				
	地史学演習	1・2後		2			○			1				
	地質学講義	1・2前		2		○			1					
	地質学実験	1・2通		2				○	1					
	環境海洋生物学講義	1・2前		2		○				1				
	環境海洋生物学実験	1・2通		2				○		1				
	科学教育論講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	数学教育指導法	1・2前		2		○			1					
	数学教育カリキュラム論	1・2前		2		○			1					
	数学教育教材開発	1・2後		2		○			1					
	数学教育研究法	1・2前		2		○			1					
	算数授業分析演習	1・2前		2			○		1					
	幾何学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	幾何学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	幾何学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	幾何学演習Ⅱ	1・2後		2			○			1				
	代数学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	代数学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	代数学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	代数学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	応用数学講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	応用数学演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	応用数学講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	応用数学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1					
	情報社会ネットワーク論講義	1・2後		2		○			1					
	情報社会ネットワーク論演習	1・2通		2			○		1					
	現代物理学講義	1・2前		2		○			1					
	現代物理学演習	1・2後		2			○		1					
気象学講義	1・2前		2		○				1					
気象学演習	1・2後		2			○			1					
	小計(42科目)		0	84	0				12	6	0	0	0	
	合計(50科目)		6	94	0				14	8	0	0	0	

教育課程等の概要															
(教育学研究科生活システム系教育専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1						
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1						
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1					
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1					
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1					
	小計(5科目)			10					2	2					
専攻必修	生活システム系教育論講義	1・2前	2			○			1						
	生活システム系教育論総合研究	1・2通	2			○			1						
	課題研究	2後	2				○		8	4	1				
	小計(3科目)		6						8	4	1				
専攻選択専門科目	技術科教育実践論講義	1・2前		2		○									兼1
	技術科教育実践論演習	1・2後		2			○								兼1
	生活科学教育学講義	1・2前		2		○			1						
	家庭科カリキュラム開発演習	1・2後		2			○		1						
	木材加工学講義	1・2前		2		○				1					
	木材加工指導論演習	1・2後		2			○			1					
	金属加工学講義	1・2後		2		○			1						
	生活機器演習	1・2前		2			○		1						
	情報計測学講義	1・2前		2		○			1						
	情報計測演習	1・2前		2			○		1						
	家族関係学講義	1・2前		2		○			1						
	ファミリー・ライフ・エデュケーション演習	1・2後		2			○		1						
	生活経営学講義	1・2前		2		○			1						
	消費者教育演習	1・2前		2			○		1						
	被服学講義	1・2前		2		○				1					
	衣生活科学実験	1・2後		2				○			1				
	食物学講義	1・2前		2		○			1						
	食生活科学実験	1・2後		2				○		1					
	食教育論講義	1・2前		2		○			1						
	食教育論演習	1・2後		2			○		1						
	住居学講義	1・2前		2		○					1				
	住居学演習	1・2後		2			○				1				
	児童学講義	1・2前		2		○				1					
	児童学演習	1・2後		2			○			1					
	技術科教育講義	1・2前		2		○			1						
	技術科教育演習	1・2後		2			○		1						
	生活経済環境論講義	1・2前		2		○			1						
	生活経済環境論演習	1・2後		2			○		1						
	小計(28科目)		0	56	0				9	3	1	0	0		兼1
	合計(36科目)		6	66	0				11	6	1	0	0		兼1

教育課程等の概要														
(教育学研究科健康・スポーツ系教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)			10					2	2				
専攻必修	健康・スポーツ系教育論講義	1・2前	2			○			1					
	健康・スポーツ系教育論総合研究	1・2後	2			○			1					
	課題研究	2後	2				○		7	2				
	小計(3科目)	—	6						7	2				
専攻選択専門科目	健康学講義	1・2前		2		○			1					
	ヘルス・ネットワーク論演習	1・2後		2			○			1				
	生体力学講義	1・2前		2		○			1					
	バイオメカニクス演習	1・2後		2			○		1					
	運動生理学講義	1・2前		2		○			1					
	運動制御演習	1・2後		2			○		1					
	環境生理学講義	1・2前		2		○			1					
	環境生理学演習	1・2後		2			○		1					
	野外教育学講義	1・2前		2		○					1			兼1
	アウトドア・レクリエーション論演習	1・2前		2			○				1			兼1
	体育心理学講義	1・2前		2		○			1					
	スポーツ・カリキュラム評価論演習	1・2後		2			○		1					
	舞踏学講義	1・2後		2			○		1					
	ボディ・コンシャス論演習	1・2前		2			○		1					
	武道論講義	1・2前		2		○			1					
	武道指導論演習	1・2後		2			○		1					
	体育社会学講義	1・2前		2		○			1					
	スポーツ行動論演習	1・2後		2			○		1					
	体育方法学講義	1・2前		2		○			1					
	体カトレーニング演習	1・2後		2			○		1					
	トレーニング論講義	1・2前		2		○				1				
	コーチング論演習	1・2後		2			○			1				
	健康管理論講義	1・2前		2		○				1				
	保健・衛生学演習	1・2後		2			○			1				
	保健体育科カリキュラム開発論講義	1・2前		2		○			1					
	小計(25科目)	—	0	50	0				8	2	1	0	0	兼1
	合計(33科目)	—	6	60	0				10	4	1	0	0	兼1

教育課程等の概要														
(教育学研究科芸術系教育専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究 専 門 科 共 通	臨床生徒指導講義	1・2前		2		○			1					
	人間形成論講義	1・2前		2		○			1					
	教育臨床相談講義	1・2前		2		○				1				
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○				1				
	学校心理学講義	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)		0	10	0				2	2				
専 攻 必 修	芸術表現・コミュニケーション論講義	1・2前	2			○			1					
	芸術表現・コミュニケーション論総合研究	1・2前	2			○			1					
	課題研究	2後	2			○			7	10	1			
	小計(3科目)		6						7	10	1			
専 攻 選 択 専 門 科 目	芸術教育学講義Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	芸術教育学演習Ⅰ	1・2後		2			○			1				
	芸術系教育カリキュラム論講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	芸術系教育カリキュラム論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1					
	芸術教育学講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	芸術教育学演習Ⅱ	1・2後		2			○			1				
	芸術系教育カリキュラム論講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	芸術系教育カリキュラム論演習Ⅱ	1・2後		2			○			1				
	声楽実践論講義	1・2前		2		○				1				
	声楽実践論演習	1・2後		2			○			1				
	器楽(ピアノ)実践論講義	1・2前		2		○			1					
	器楽(ピアノ)実践論演習	1・2後		2			○		1					
	作曲実践論講義	1・2前		2		○				1				
	作曲実践論演習	1・2後		2			○			1				
	音楽論講義	1・2前		2		○			1					
	現代音楽論演習	1・2後		2			○		1					
	表現実践論講義	1・2前		2		○					1			
	表現実践論演習	1・2後		2			○				1			
	比較芸術論講義	1・2前		2		○				1				
	比較芸術論演習	1・2後		2			○			1				
	メディア文化論講義	1・2前		2		○				1				
	メディア文化論演習	1・2後		2			○			1				
	絵画実践論講義	1・2前		2		○				1				
	絵画実践論演習	1・2後		2			○			1				
	彫刻実践論講義	1・2後		2		○			1					
	彫刻実践論演習	1・2後		2			○		1					
	応用造形実践論講義	1・2前		2		○			1					
	応用造形実践論演習	1・2前		2			○			1				
	メディア思想論講義	1・2前		2		○				1				
	メディア思想論演習	1・2後		2			○			1				
	メディア芸術論演習	1・2後		2			○			1				
	美術表現・コミュニケーション論演習	1・2後		2			○		1					
	小計(32科目)		0	64	0				7	10	1	0	0	
合計(40科目)			10	74	0				9	12	1	0	0	
修士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
【修了要件】 ① 2年以上在学し、履修基準に従って30単位以上習得すること ② 通算GPAが2.0以上であること ③ 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること						1学年の学期区分				2学期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

【履修方法】

		授業科目	最低単位数
研究 科 共 通	専 門 科 目	臨床生徒指導講義 2単位	いずれか1科目2単位
		人間形成論講義 2単位	
		教育臨床相談講義 2単位	
		学校臨床心理学特論 2単位	いずれか1科目2単位
		学校心理学講義 2単位	
専 攻 必 修	専 門 科 目	専攻の教育専門科目 2単位	3科目6単位
		専攻の総合研究科目 2単位	
		課題研究 2単位	
		専攻選択専門科目	20単位【注※】
合 計			30単位

【※】専攻選択専門科目の最低単数20単位のうち、少なくとも10単位は
自専攻かつ自コースの科目単位を修得すること